



～RSV・ヒトメタニューモウイルス (hMPV) について～

小児科 糸長 昌彦



RSV (RS ウイルス) や hMPV (ヒトメタニューモウイルス) は、乳幼児によくみられる「かぜウイルス」です。特に 0～2 歳のお子さんで流行しやすく、咳や鼻水、発熱などを起こします。

よくある症状

- ・鼻水 ・咳 ・発熱 ・のどの痛み ・ゼーゼー、ヒューヒューする呼吸
- ・ミルクや食事が進まない ・嘔吐 (咳き込みによることがあります。)



多くは自然に改善しますが、乳児では細い気管支に炎症が起き、細気管支炎や肺炎になることがあります。

自然経過

- ・発症して 2～3 日目頃に咳が悪化しやすい
- ・発熱は 3～6 日程度で落ち着くことが多い
- ・咳は 1～2 週間ほど続くこともある
- ・過去に感染したことがある場合などは鼻水や軽い咳だけで終わる場合もあります



RSV は特に生後 6 か月未満の赤ちゃんで重症化しやすいことが知られています。

ご家庭でのケア

- ・糖分を含む水分を少しずつこまめに飲ませる
- ・鼻水を吸ってあげる
- ・咳で眠れない時は上半身を少し起こす

すぐに受診・救急相談が必要な症状

- ・息をするたびに胸やお腹が凹む (陥没呼吸) ・顔色や唇が紫っぽい (チアノーゼ)
- ・しばらく呼吸が止まる (無呼吸発作) ・ぐったりして反応が悪い
- ・水分がほとんど取れない

このような場合は、夜間でも医療機関へ相談してください。

受診の目安

- 次のような場合は受診をおすすめします
- ・発熱が 5 日以上続く ・ゼーゼーしている
 - ・ミルクや水分が飲めない
 - ・尿が少ない ・元気がない ・夜も眠れないほど咳き込む ・呼吸が速い、苦しそう

特に乳児では、顔色や呼吸の様子が大切です。

入院になることがあるのは？

以下のような場合は入院治療が必要になることがあります。

- ・酸素が足りない ・呼吸が苦しい ・低血糖や脱水になる ・生後すぐ (6 か月以内) の赤ちゃん
- ・早産児や心臓・肺の病気がある ・無呼吸発作がある



入院では、酸素投与や点滴、必要に応じて呼吸のサポートを行います。

最後に



RSV や hMPV は非常によくある感染症で、多くのおさんは自然に回復します。一方で、低年齢の児では急に状態が悪化することもあるため、「呼吸」や「糖分・水分が取れているか」をよく観察することが大切です。



3月27日（金）、避難訓練を実施しました！



3月27日（金）、火災による避難訓練を実施しました。

「夜間、3階病棟 309号室より出火 初期消火が不可能」という想定のもと、スタッフによる避難誘導や、実際に消火器・消火栓などを使用した放水訓練に取り組みました。

“日頃の備え”がいかに重要であるか、職員一同がその責任の重さを改めて認識し、意識を高める貴重な機会となりました。

訓練にご協力いただいた患者様、ならびにご家族の皆様、温かいご支援をありがとうございました。
皆様の安全を第一に、これからも万全の体制を整えてまいります。



5月1日（金）、5月8日（金）新人職員手洗い講習会を実施しました！

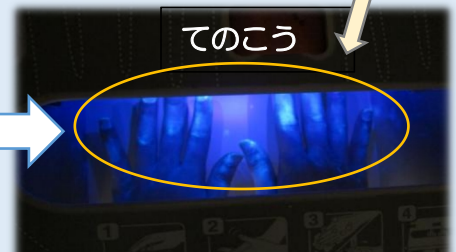
5月1日（金）、5月8日（金）に新人職員手洗い講習会を実施しました。

感染防止対策の意識を高め、多職種スタッフ間で共有した同じ対策がとれるようになることを目的として毎年新人職員を対象に行っています。今回は手洗い方法や吐物処理の方法を資料で学び、手洗い方法はブラックライトに反応する薬剤を用いて実践をしました。



ゴシゴシ洗おう！
きれいにできるかな？

てのひらはきれいに洗えてるけど、
てのこうやつめにはまだ汚れが残っているね！
正しいてのこうをして元気でいよう！



～診療時間のご案内～

午前 9：00～12：00
午後 15：00～18：00（月～金）
14：00～18：00（土）

乳児健診・予防接種

14：00～17：00（水曜のみ）予約制

☆休診日：日曜・祝祭日・年末年始

ただし急患の方はこの限りではありません
お電話なしでご来院ください

☆付き添いに関するお願い☆

当院では感染拡大防止対策として、入院患者様の付添いや時間外の面会を制限させていただいており、また外来診察は、

『患者さま1名につき、付添い1名のみ』

とお願いしています。付添いがお一人で難しい場合は、スタッフにご相談ください。

ご理解の上、ご協力をお願いいたします。